



公社だより ～水産千葉～

(発行者)
 公益財団法人 千葉県水産振興公社
 〒260-0013 千葉市中央区中央 3-3-1
 TEL 043-222-3181
 FAX 043-222-2440

はじめに

当公社ではヒラメやマダイ、アワビの種苗放流など栽培漁業に係る業務を中心に、環境関連の調査事業や漁業経営の改善指導事業など本県水産業の振興に向けた取組を、千葉県や水産関係団体、市町村等と連携しながら実施しています。本号では令和6年度上半期における業務の遂行状況について報告させていただきます。

1 栽培漁業の取組(種苗生産・放流)

令和6年度上半期においては、ヒラメ、マダイ、クルマエビ、マコガレイ、ノリ、アワビの種苗を生産(飼育)しました。魚種別の生産量は下表のとおり、ほぼ計画どおり行うことができました。生産した種苗は、漁業関係者や市町村の皆様と協働して海へ放流しました。また、ノリ種苗[※]アオノリ母藻についても、水温の低下とともに始まる養殖開始に向け、漁業者の皆様へ提供しました。

[※]青混ぜ海苔は、香りが良いこと等から人気があり、通常のアオノリを混ぜて生産するために使用します。

令和6年度の種苗放流・配付 (計画・実績)

種類	計画	実績
ヒラメ	94万尾 (全長80mm)	105.4万尾 (全長86mm) (計画比 112.1%)
マダイ	100万尾 (全長60mm)	108.5万尾 (全長68mm) (計画比 111.2%)
クルマエビ	600万尾 (体長30mm)	651万尾 (体長33mm) (計画比 108.5%)
マコガレイ	46万尾 (全長40mm)	36.4万尾 (全長42mm) (計画比 79%)
ノリ	138,600枚 (カキ殻糸状体完製品)	143,200枚 (計画比 103.4%)

放流時のヒラメ種苗 (約8cm)



放流時のクルマエビ種苗 (約3cm)



飼育中のアワビ稚貝

アワビに関しては、近年、海水温の上昇や県施設の老朽化など複合的な要因から不調が続いており、特に昨年度は計画比で約2割の生産に落ち込みました。漁業者をはじめ、関係者の皆様に変な御迷惑をおかけして、申し訳ございませんでした。公社としては、県と連携・協力しながら生産の向上に向けて取り組んでいるところであり、9月から本年度分の種苗の出荷を始めているところです。また、11月上旬からは来年度向けの採卵を開始しました。漁業者の期待に沿えるよう最大限努めてまいります。

2 栽培漁業の取組（普及啓発）

当公社では栽培漁業の普及啓発の取組を強化しているところです。

本年度はヒラメ体験放流やアワビ種苗の生産現場体験などの参加を募集したところ1高校、1中学校、5小学校、1幼稚園の生徒・児童さんが参加くださいました。

また、6月の県民の日に合わせて鴨川シーワールドのマダイ種苗の放流イベントにも協力しました。今後も市町村や学校関係者等と連携して、栽培漁業の普及啓発の取組を拡大してまいります。



ヒラメ放流体験



栽培漁業の講義



鴨川シーワールドでの放流イベント



3 漁業経営改善指導の取組

安定的かつ効率的な漁業経営を図るため、まき網漁業を対象に、県や水産関係団体と連携して漁業経営改善に向けた取組を指導しました。

学校等の先生方へ

栽培漁業の取組を将来に渡って持続的に展開していくため、小中学生等を対象に普及啓発の取組に力を入れています。

体験放流のほか、出前授業についても、対応したいと考えております。興味を持たれた学校関係者の方々からのご相談をお待ちしています。よろしく申し上げます。

連絡先：（公財）千葉県水産振興公社
 電話 043-222-3181
 メール taiken_bosyu@chisuikou.jp
 担当課 事業課

4 内水面漁業振興の取組

当公社では、県からの飼育業務委託を受け、佐倉市に所在する県内水面水産研究所においてアユの種苗生産・中間育成の飼育業務を担っています。

アユは「清流の女王」とも呼ばれており、塩焼きなどで食するとともに河川レジャー（釣り）の対象となるなど、河川を代表する魚です。

アユの生態

アユは秋に河川の下流域で産卵し、ふ化した仔魚は河川を下り海域に入ります。海域で生活し、春に河川へ遡上します。岩に付着している藻類や川虫などを食べながら生活し、生後1年で産卵し死亡する一年魚です。



アユの友釣りの風景